

la santé 健康

ラ・サnte



vol.168
令和 7 年10月20日

2025 秋

編集・発行:社会医療法人玄真堂
広報委員会:二木麻衣、壇 千恵子
〒871-0012 中津市宮夫14-1
TEL0979-24-0464
<http://kawashimahp.jp>



『稲の稔る頃』川嵩 照代 画

理 念

- 地域・住民・患者から評価・信頼される医療・介護を提供します
- 安心・安全・やすらぎ・心のこもったサービスを提供します
- 絶えざる改善と生涯教育を継続し、職員個々の能力を向上します

運営方針

- 整形外科の専門病院として、良質の医療を提供できるように最善の努力をします
- 患者、利用者の権利を尊重し、インフォームド・コンセント(説明・同意・納得)を含む安全管理を徹底します
- 「医は仁ならざるの術、務めて仁をなさんと欲す」の精神を尊重します
- 社会の変化にしなやかに対応しながら心技態を切磋琢磨し、全人間的な成長を目指します
- 地域の皆様の健康と生命を守るために最善を尽くします
- 職業を通じて地域社会に奉仕し、地域の社会的共通資本として認められるように努力します

第43回大分県病院学会「超高齢社会の中の病院」

社会医療法人 玄真堂 川嘉整形外科病院

院長 川嘉 眞之



7月27日(日)に第43回大分県病院学会が、社会医療法人関愛会の長松宜哉会長の下、別府ビーコンプラザで開催されました。

今回のシンポジウムのテーマ「大分県の高齢者医療の現状」において「高齢者外科手術の現状」についての講演のご指名をいただいたのですが、前日に小倉で開催された九州高気圧環境医学学会に参加の後、小倉駅から移動する際に、北九州で発生した停電のため電車が一時ストップしてしまい、シンポジウムの打ち合わせに間に合わないというハプ

ニングがありました。

冒頭の福岡国際医療福祉大学教授の松田晋哉先生による特別講演「我が国の入院医療における高齢化の現状と対策」では、少子高齢化と労働力不足、物価・人件費の高騰、頭打ちの診療報酬といった厳しい環境の中で、私たち医療機関が取り組むべき課題として、医療の集約化や地域における医療需要のマッチング、総合診療医の確保、早期リハビリの推進、栄養管理の重要性、ITの活用等が示されました。医療機関内で完結できる課題もあれば、地域として取り組まねばならない課題もあり、改めて難しい問題であることを再認識しました。

少し話はそれますが、現在、物価上昇とともに増大する医療機関の消費税負担

も問題となっています。日本では保険診療は非課税となっていますが、医療機関が購入する薬物などの物品や機器、建物等には消費税がかかります。この消費税分は診療報酬で補填されているといわれていますが、今回のようなインフレに伴う消費税増加分は診療報酬から補填されないことは明らかであり、また物品等の購入が多い病院はもとより

診療報酬で補填されない消費税の負担が高いことが示されています(控除対象外消費税問題)。医療機関でも本来ならば診療報酬での補填ではなく、消費税の課税を行うことが一番シンプルかつ公平で理にかなうと思いますが、変更される気配は全くありません。昨今、過去最高の医療機関の廃業・倒産件数や、約7割の病院が赤字であることが報



松田先生と長松会長



シンポジウムでの発表



病院医療利益率（日本病院会HPより）

道されていますが、国や各保険の厳しい財政状況の中、公定価格である診療報酬の増額も認められない現状においては、今後、医療サービスの低下も止むなしととられかねない議論もみられています。なかなか妙案は見つかりませんが、30年ぶりのインフレ時代にお

いても国民に安心安全な医療を提供していくためには医療機関も他の業種同様、増収増益が不可欠であり、そのためには混合診療についてもタブー視することなく議論していくことが必要であると個人的には思います。さもないと早晩、特に救急医療を含め日本の医療

はまさに崩壊へと進んでいくことが危惧されます。また経済学的には緊縮財政と積極財政の理論が展開されていますが、それぞれの立場からの直接的な議論を目にするのがあまりないように思います。そもそも消費税はどうしたらよいのかということも含め、専門家

の積極的な議論を期待したいと思います。

さて前述のようにシンポジウム「大分県の高齢者医療の現状」では大腿骨近位部骨折を中心に「高齢者外科手術の現状」として、大分県北・豊前地区における当院での現状を報告するとともに、当地区の多職種による骨折予防活動について報告いたしました。また、大東よつば病院院長の立川洋一先生からは、大分県で立ち上げた心不全ケアの取り組みについて、更にアルメイダ病院の救急・集中治療科部長の稲垣伸洋先生からは高齢者救急の現状についてのご発表がありました。

本学会では県下の病院等から昨年を大きく上回る157の演題が集まり、会場には久々にコロナ禍前の活

気が戻ってきたようでした。様々な課題に対して工夫を凝らすことでなんとか現状を打破し、切磋琢磨して地域医療に貢献していきたいという病院関係者の強い思いと力を感じました。当院からも各部署から10の演題が発表され、他病院の方とのディスカッションも充実し大変刺激を受けたようです。医療・介護の世界では暗い話題が多い昨今ですが、地域と共に医療人が輝ける未来を期待したいと思います。

最後になりましたが、学会関係者の皆様、多忙な中、研究・発表を行った職員をはじめ、関わっていただいたすべての皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。



去る5月25日、京都市黒谷の金戒光明寺にて、一節蔵尺八中興の祖・大森宗殿没後400年記念「一節蔵の調べ」全国大会に参加した。宗殿の曲は戦国武将の織田信長にも愛されたことでも知られており、その墓所は寺の裏山の高所にあり墓前にて演奏者全員が一節蔵を演奏した後、会場に戻り演奏会が開催された。



川崎 真人

この節は戦国時代には最盛期を迎えて、江戸時代には衰退し中津藩の前野良沢を最後に近代尺八に替えられてしまった。私たちは20年前に中津市立村上医史史料館で良沢由来の一節蔵を4本発見し、郷土名家の本徳昭光氏に復刻をしていただき、伊藤正敏師範の下で15年間にわたって練習に励んできた。

この節を米国で吹く機会が偶然にも直後に訪れた。去る6月11・4日にわたって米国アトランタにて国際溜水高気圧医学会と宇宙環境医学会との合同学会が開催され、当院からは川崎真之院長が下肢の難治性潰瘍に対する433例に及ぶ良好な成績を発表し大きな反響を頂いた。

私は7年前から特別賞を授与する立場にあり、日本における高気圧医学の発展と、私を支えてくれたパイオニア精神の原点である良沢が愛好した一節蔵の歴史を報告し、古典曲「伊勢踊り」を披露したところ大変な反響を得ることができた。米国の医学者も音楽を愛好する人が多く学問の進歩と音楽の結び付きは日米ともに変わらないことを痛感した。(川崎整形外科病院理事長・中津市)



去る6月15日、中津市の八面山あじさい園にて記念コンサートが開催された。当院からは「一節蔵、しの笛、ケイナ」の3種類の竹笛で演奏した。八面山あじさい園は地域の方々がボランティアでアジサイを育てていたのが始まりで次第に拡充され、350種類6千株に及ぶほどの規模となつて広大な敷地の中に花々が咲き誇り見事な景観となっている。



川崎 真人

実はアジサイと中津は歴史的な深い関係がある。中津藩主五代目奥平昌高はシールボルトと交際を深めていたことがシールボルト日記に記載されている。シールボルトは特に日本の植物について興味を持っていたらしくオランダに持ち帰りライデン大学の中に植物園が造られ展示されている。

私は1990年、ライデン大学で講演した折、その植物園を訪れる機会があった。シールボルトはアジサイを愛したようで、著書「日本植物誌」には、日本人妻のおタキさんから付けられたといわれる「ハイドランジア・オタクサ」がアジサイに名付けられ紹介されていた。

シールボルトが持ち帰ったアジサイは、日本の浮世絵にも紹介されているようにガクアジサイとコマダリアアジサイであった。アジサイはその後、ヨーロッパでさまざまな改良が加えられ数百種類となり再び日本に里帰りして今日の八面山あじさい園のように見事に花開く主人公となっている。今年の見頃はもう終わってしまったが、ぜひアジサイの美しさを八面山あじさい園で味わってもらいたい。

(川崎整形外科病院理事長・中津市)

大分合同新聞 2025年(令和7年)7月30日(水曜日)

大分合同新聞 2025年(令和7年)6月26日(木曜日)



何のために生きるのか



脊椎背髄センター長
吉田 裕俊

近年、医療を取り巻く環境は急速に変化している。日本を代表するはずの大学病院や国公立病院、民間病院が軒並み赤字経営に転落している。こうした背景のもと、私達にも時代に即した対応が求められている。入職から二年を経て、私が強く感じたことは二点である。

第一に、医療内容や院内規約、勤務体制には現状と

『少ししかできないからといって、何もしないことほど大きな間違いはない』

社会的要請との間に調整が必要であり、効率的かつ質の高い医療の提供に向けて改善を重ねること。

第二に、全職員が、部門や職種の垣根を越えて病院全体の最善を考え行動する重要性である。

私自身は、脊椎医療や手術分野でまだ緒に就いた段階だが、さらなる経験を重ね、病院経営の安定化と職員待遇の向上に寄与したい。変化の時代だからこそ、全員で同じ方向を見据え、支え合いながら前進していきたいと考えている。



カウンセリングはじめました

医学博士・臨床心理士・公認心理師 森寺亜伊子



みなさん、こんにちは。医

学博士・臨床心理士・公認心理師の森寺亜伊子です。

本年5月より職員さま向けのカウンセラーとして勤務させていただいています。

カウンセリングという堅苦しいイメージをお持ちの方もいらっしゃるかもしれませんが、「話す」ということは、自己の内面を表出する、ということでもあり、そのことによって、枠のない曖昧な自己の内面を適切に整理できることも多いものです。

枠のない世界でよくあるのは、「事実」と「捉え方」を

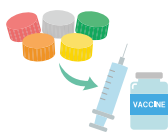
混同してしまい、ついつい何でもネガティブに考えてしまうことです。「話す」ことによって、それらをひとつひとつ整理していけるようにお手伝いできればと思っています。

私自身は、天体観測や登山、キャンプなどが大好きで、よく、自然の中へ癒されに出かけています。キャンプはテントを担いで山に登り、何もないうところで星を見ながら夜を過ごすことも多いです。九州・四国の各県の最高峰には全て登頂したので、次は本州の山を制覇したいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



エコキャップ活動

社会奉仕委員会 堂後 新



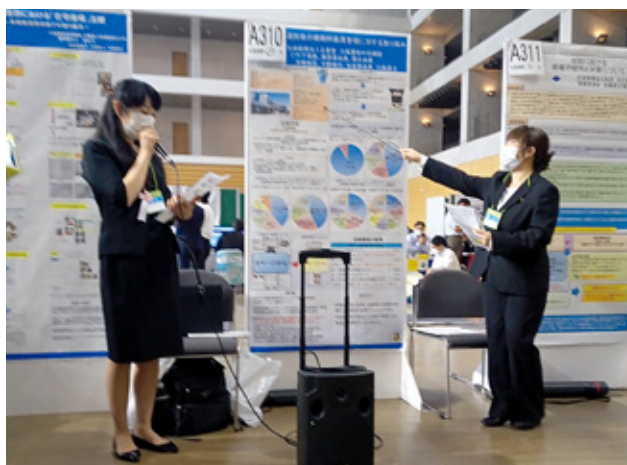
社会奉仕委員会では法人内外でのボランティア活動や災害地域への募金回収などの活動を行っています。そのうちのひとつにエコキャップ活動というものがあります。エコキャップ活動とは、飲み終わったペットボトルのキャップを回収、リサイクル業者へ販売し、その売却益を寄付し、‘国連児童基金（UNICEF）’を通じて発展途上国の子ども達にワクチンを届ける活動です。当法人では令和5年度は72kg、令和6年度は89.5kgのペットボトルキャップが集まりました。今年度は100kg回収することを目標とし、職員に呼びかけています。全国でもこの活動は行われており、わずかながらでも発展途上国の子ども達に支援し続けられるように活動を継続していけたらと思っています。



第43回 大分県病院学会での発表を終えて

●看護部 5階病棟 竹下 理恵

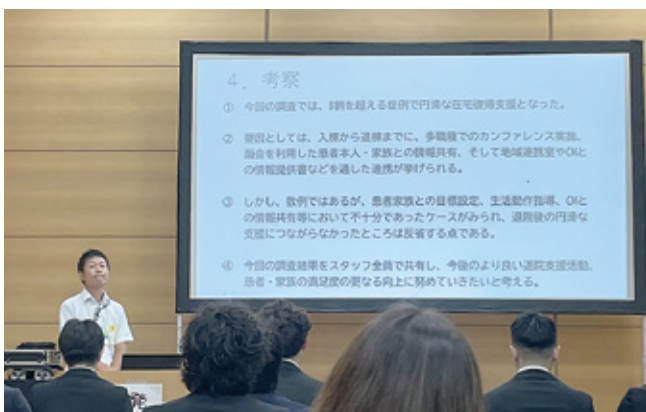
7月28日、別府市で開催された第43回大分県病院学会で「退院後の継続的装具管理に対する取り組み」のポスター発表を致しました。退院後の高齢患者様の装具管理ができていない現状を知り、今回は圧迫骨折患者様が使用するジュエット装具（腰部固定帯）の退院指導パンフレット作成を行い、文字を大きく、写真を多く取り入れて要点をまとめたことで、高齢者の視覚に順応し、退院後も繰り返し確認できる効果的な指導が行えました。多職種に退院後の装具管理の追跡調査を協力頂き、装具管理の経過を発表する事ができました。入院期間に限りがある中で今後も安心した治療が継続できるように、多職種と協力して看護の提供を行っていききたいと思います。



●病院リハビリテーション科

回復期リハビリテーション 主任 斉藤 直人

7月28日、別府市で開催された第43回大分県病院学会に参加し、「当院回復期リハビリテーション病棟退院後の生活状況把握における新たな取り組み」として、患者さんの在宅復帰に際し、多職種連携での退院支援の結果が実際どうだったのか、振り返りを行い、反省点も含めて発表させて頂きました。実際に調査してみても、退院支援がうまく行えた症例や自宅での生活動作、ホームエクササイズ等指導が不十分であった症例等、ご家族さんや担当ケアマネージャーさんから貴重な意見を頂きました。また発表後に他施設の方からもご意見を頂き、情報交換を図ることもでき、有意義な発表となりました。これらの結果を回復期リハビリテーション病棟の多職種で共有し、今後のより良い支援に活かしていきたいと改めて思いました。また、今回の発表では多くの方に協力頂いた中で調査、発表を行うことができました。ご協力頂いた皆様、本当にありがとうございます。



モーニングセミナーでの発表を終えて

リハビリテーション部 副主任 松田 健志

7月18日、法人のモーニングセミナーで発表する機会を頂きました。この勉強会は毎月第3金曜日に、医師や関連職種が様々なテーマで講義を行う任意参加の会で、今回は羽田主任と私の二部構成で発表しました。医師が講師ではないので、参加者数を心配していましたが、会場は予想以上の盛況で、仲間の学ぶ姿勢に感動するとともに、その責任の重さを改めて感じました。

羽田主任は、数多くの研究活動の遍歴と現在取り組んでいる振動刺激とその効果検証の計画をわかりやすく説明しました。私は、今年の5月末



に主任と参加した国際学会での発表内容と、登録から抄録作成の過程、当日までの様々な経験を報告しました。国際学会で発表することは容易ではないですが、研究を通じて他国の理学療法士と交流できたことは、私にとって貴重な体験でした。今回感じたこと、学んだことを地域の皆様へ還元できるように精進していきたいと思います。

合同就職説明会に参加しました

看護部 教育担当副部長 藤沢 貴美子

7月26日(土)、博多国際展示場で開催されたナース専科主催の合同就職説明会に参加しました。全国から多くの医療施設が出席し、800人近い来場者が関心のあるブースを訪問しました。前回(今年2月)参加以降、60人を超える資料請求が届きました。今回も2人のホープが、いつもと変わらない親しみある雰囲気

で、元気に明るく声をかけてくれたおかげで、多くの学生方に当院看護部の紹介ができました。また、総務



部長や副看護部長のサポートもいただき、準備していた資料が足りなくなるという嬉しい状況の中、説明会は終了しました。

夏の暑さと熱気あふれる会場で、看護師として働く自分をイメージしながら就職活動している姿は、真剣で頼もしく、将来の可能性を確信しました。これから



▲説明時間の整理券を配布しています

部を発信し、就職につながる活動を継続していきたいと思っています。



▲看護部の紹介をしています



▲装飾セットでブースは華やかになります

『病院機能評価について』

診療部長 佐々木 聡明



令和7年8月25日、26日の両日に病院機能評価を受審しました。病院機能評価とは「国民の医療に対する信頼を揺るぎないものとし、その質の一層の向上を図るために、病院の医療機能を学術的観点から中立的な立場で評価し、その結果明らかとなった課題の改善を支援する」という目的で、1995年に設立された日本医療機能評価機構によって1997年より行われてきたものです。当院は大阪府の病院における先駆けとして、初めて病院機能評価を受審したという実績もあり、5年毎に更新してきましたが、コロナ禍において、残念ながら継続が困難と判断して受審を断念しておりました。今回はコロナ禍もあけ、改めて10年ぶりの病院機能評価受審となりました。令和6

年7月より実行委員会を立ち上げ、各部署から委員を出し、機能評価の項目別解説集を参考に現状の調査、評価及び改善を1年かけて繰り返し行ってきました。受審当日、3名のサーベイヤーを迎え、各部署における機能評価が実施されました。最終の講評にて高評価を受けた面もあれば、新たな問題点も指摘され、今後の課題として取り組んでいかなければならないと思っております。また、地域医療の一端を担う病院として、「患者が安心して医療を享受でき、職員が働きやすく、地域に信頼される病院作り」を目指し、病院機能評価を通して継続・向上させていきたいと考えています。

「ご縁と支援」

介護保険サービスセンター

ケアマネジャー 井上 光子



私達の支援のきっかけは、患者さんやご家族から医療連携室経由で相談をいただいたり、包括支援センターから紹介をいただいたりと様々です。

支援においては、まずその方の状況をアセスメントし、個々のニーズに合わせたケアプランを作成し介護サービスの提供に繋がっていきます。サービス利用で状態が改善した時にはケアマネジャーとしても達成感があります。例えば、椅子からの立ち上がりが困難で置き型手すりを使用していた方が、通所リハビリテーションを利用していくうち自力で立ち上がりができるようになり、貸与していた手すりを返却された事がありました。

また、この仕事をしていると、以前関わりのあった利用者さんのご家族から相談を受けたり、ご夫婦を次々と担当したりすることもあります。その時は「ご縁がまた繋がった」と、嬉しさとやりがいを感じます。

今後も喜んでいただけるような「支援」を目標に邁進していきます。どんなことでもお気軽にご相談下さい。連絡をお待ちしております。

デイサービスひだまり 2025年夏!

デイサービスひだまり 小川 優美



デイサービスひだまりでは、ご利用者と職員が一緒に外出し、近郊のお店に買い物や、屋外散策を行う行事が年数回あります。屋外行事はご利用者に変化喜ばれる行事となり、参加者は当日を楽しみにされています。

今回、『夏の甘味ドライブ&お買い物ツアー』と題し、7月7日から7月18日の期間、参加希望者対象に市内東中



津「ファミリールストラン ジョイフル」にて冷たいおやつを頂いてホッと一息。その後は市内東中津「マルシヨク」にてお買い物を楽しみました。

まだまだ暑い最中ではありましたが、ジョイフルのかき氷やケーキ、パフェ...暑さも忘れさせてくれたようでした。

マルシヨクでは、青果コーナーに陳列されていた大きなスイカに驚いていました。またご自身やご主人に！近所に！とそれぞれ思い思いに商品を手に取り買われていたのが印象的でした。

屋外活動が心身のリフレッシュにも繋がったと思います。今後も熱中症対策や感染対策を行いながら、ご利用者が安心して楽しめる行事を提供していきたいと思えます。

敬老の日をお祝いしました

看護部 手術室 田中 徹子

9月13日(土)に「福寿々今までとこれからの感謝」と題しまして、第31回寿会が開催されました。コロナにより開催を見送っていましたが、今回5年ぶりにお祝いすることが出来ました。理事長の母校である中津中学校吹奏楽部の生徒35名による演奏や一節截、ケーナ、篠笛3団体による笛演奏はとても素敵で高齢者の方々からとても喜ばれました。病院内のホールで開催されましたが、ホールに来ることが出来ない入院患者さんにも音楽を届けようと病室のテレビからも視聴できるようにしました。音楽には不安や痛みの軽減、精神的な安定、脳の活性化、ストレス軽減など心身にわたる様々な効果があります。入院中の患者さんの心の安らぎ、治療への活力に繋がれたのではないかと思います。演奏中は懐かしい音楽に涙を流す方や、耳を傾けてリラックスする姿がみられました。有意義な時間を共有し高齢者の方々に感謝の気持ちを伝えることが出来て良かったと感じました。



カワシマハンドセラピー研究会

- 2025.6.16
「症例報告」
中埜作業療法士
- 2025.7.28
「症例報告」
岸本リハビリテーション部副主任・大鶴作業療法士
「神経麻痺と腱断裂の鑑別」
白石作業療法士
- 2025.8.18
「症例報告」
杉本リハビリテーション部部長代理・川端作業療法士
「手指の骨運動と変形性指関節症」
川端作業療法士

膝関節勉強会

- 2025.6.11
「Varus thrustに関連する下肢アライメントについて」
辛嶋リハビリテーション部副主任
- 2025.7.9
「半月板について」
久保理学療法士
- 2025.8.13
「double knee actionについて」
木部理学療法士

脊椎勉強会

- 2025.6.24
「腰部脊柱管狭窄症を呈し、腰椎椎弓切除、椎体固定術を施行された症例」
斉藤リハビリテーション部主任
- 2025.8.29
「経皮的椎体形成術（BKP）について」
吉田脊椎背髄センター長

スポーツ医学勉強会

- 2025.6.2
「Overhead sportsにおける胸郭出口症候群について」
羽田リハビリテーション部主任
「成長期障害と成長期遺残障害」
古江副院長
- 2025.7.7
「花粉症とスポーツ」
尾崎理学療法士

- 2025.8.4
「スポーツによる半月板損傷」
辛嶋リハビリテーション部副主任
「ウォーミングアップ（FIFA11+）の有効性について」
岸本リハビリテーション部副主任

看護部勉強会

- 2025.6.4
「よりよく生きるためのアドバンス・ケア・プランニング」
「患者の意思決定を支援するポイント」
- 2025.6.7
新入看護職員研修
「自分の考え方のくせを知ろう」
「バイタルサインの捉え方」他

院外発表・講演

- 2025.6.1～2025.6.5
2025 AsNA-UHMS (Undersea & Hyperbaric Medical Society) Annual Scientific Meeting (アメリカ)
「Hyperbaric Oxygen Therapy for lower limb intractable ulcer」
川島院長講演
- 2025.6.27～2025.6.29
日本老年看護学会第30回学術集会 (千葉県)
「急性期病棟に勤務する看護師の老年観に関する調査研究」
藤沢教育担当副部長発表
- 2025.7.11～2025.7.12
第48回日本骨・関節感染症学会 (福岡県)
「インプラント感染に対する高気圧酸素治療」
川島院長発表
- 2025.7.26
第25回九州高気圧環境医学会 (福岡県)
「2年8ヵ月持続したCOVID-19後遺症にHBOで症状が改善した1例」
山口高気圧酸素治療科統括科長発表
- 2025.7.27
第43回大分県病院学会 (大分県)
「高齢者外科手術の現状－大腿骨近位部骨折を中心に－」
川島院長発表
「医療機関との連携強化を行うために－必要な情報、心を込めてお届けします－」
太田看護師発表
「当院回復期リハビリテーション病棟退院後の生活状況把握における新たな取り組み」
斉藤リハビリテーション部主任発表
「転倒件数減少に向けた当院回復期病棟の取り組み」
山本理学療法士発表
「大分県のHBOの現状とオペレータ・ネットワークの紹介」
山口高気圧治療科統括科長発表
「マイナンバーカードの利用率UPと情報活用について」
松垣事務職員発表

院内勉強会

モーニングセミナー

- 2025.6.20
「TKAの基礎と臨床－後編－」
永芳クリニック所長
- 2025.7.18
「最近の私の臨床研究について」
羽田リハビリテーション部主任
「世界理学療法学会参加報告 ～参加登録から諸外国PTとの交流～」
松田リハビリテーション部副主任
- 2025.8.15
「最近の高気圧酸素治療の話題」
川島院長

水 滴 塾

第19回 2025年6月13日

- 企画情報部 清成主任
「高学歴な人ほど大ピンチ！ AI時代に磨くべき「3つの能力」より
- 看護部 藤沢副師長
「『致知』2025年7月号 特集一念の微」より

第20回 2025年7月4日

- 介護保険サービスセンター 小野英樹
「『致知』2021年8月号 果てしなきおもてなしの向上を求めて」より
- 薬剤科 杉原主任
「セクハラ5割超が泣き寝入り 減らぬ加害者予備軍 被害者保護は手探り」より
- クリニックリハビリテーション科 羽田主任
「人生後半、そろそろ仏教にふれよう 佐々木閑×古館伊知郎」より
- 病院リハビリテーション科 合津理学療法士
「バカの壁 養老孟司」より

第21回 2025年8月22日

- 高気圧治療科 宮田主任
「第59回日本高気圧潜水医学会 教育講演 安心な医療につながる『やさしい日本語』」より
- 訪問看護リハビリステーション 中野副主任
「リーダーの仮面 ―「いちプレーヤー」から「マネージャー」に頭を切り替える思考法― 安藤広大」より
- 放射線科 高橋健一郎
「最近の鶴市傘鉾神事と東浜地区の取り組みについて」より

- 2025.6.17
実習指導者学習会 1回目
看護補助者研修 「疾患学習会」
- 2025.6.24
レベルIV コーチング研修
- 2025.7.5
新入看護職員研修
「コミュニケーションと多重課題」
- 2025.7.15
看護補助者研修
「医療安全」
- 2025.8.2
新入看護職員研修
日常生活援助技術（食事と排泄に関する看護技術）
- 2025.8.5・8.12
副主任研修 1回目
- 2025.8.26
看護補助者研修
「足浴」
- 2025.8.29
指導者研修 1回目



医局抄読会

第1、2、4火曜日の朝7時45分スタート

2025.6.3

様々な大腿骨遠位骨切り時の膝窩動脈損傷を防ぐ安全な骨切条件 3次元シミュレーション解析

本山副院長

2025.6.10

第5中足骨基部骨折の治療

古江副院長

2025.6.24

長管骨開放骨折における骨折関連感染（FRI）-資源の限られた国における2施設の症例対照研究-

川島院長

2025.7.1

高齢者における股関節骨折に対するユニポーラー型人工骨頭置換術、バイポーラー型人工骨頭置換術及び人工股関節全置換術

佐々木診療部長

2025.7.8

足関節後果骨折の観血的整復における靱帯結合部の安定化の必要性を評価する

後藤診療部長

2025.7.22

大腿骨頸部骨折に対する人工股関節置換術後の転帰には、直接経口抗凝固薬の使用時期は影響を及ぼさなかった

角田医師

2025.7.29

整形外科領域における血栓症予防

越智医師

2025.8.5

内側半月後根断裂における外傷性と変性の違い

本山副院長

2025.8.12

中程度の大きさの後果骨折は止めなくてよい

古江副院長

論文（共同含）・誌上発表

- 川島真人：杉田玄白と前野良沢に見る自然と食，養生七不可指南書－杉田玄白に学ぶ長生きの秘訣－：26-30，2025
- 川島真人：福澤諭吉を生んだ中津藩蘭学－中津蘭学とパイオニア精神－，会報第61号 三毛の文化：1-2，2025
- 川島真人：奥平昌高とシーボルト－中津蘭学とパイオニア精神－，会報第61号 三毛の文化：41-58，2025
- 岸本進太郎，他：肘関節周辺外傷患者はいつから安全な自動車運転が可能になるか，日本ハンドセラピー学会誌，17(2)：97-101，2025

健康教室のおしらせ

健康維持にまつわる講演を開催しています。院内のスタッフが講師をつとめ、地域の皆様のお役にたてる内容となっております。毎回講演内容も変わり好評をいただいております。50名程度の参加が可能となっておりますので、どなたでもお誘いあわせのうえお気軽にご参加下さい。

「フットケアについて」

- 日時：2025年11月8日(土)
13時15分から14時
- 場所：病院1階玄真堂ホール
- 演者：看護師



「いつまでも元気に！健康維持体操」

- 日時：2026年1月17日(土)
13時15分から14時
- 場所：病院1階玄真堂ホール
- 演者：理学療法士 尾道 健太郎



講演の内容は変更になる可能性があります。
参加希望の方は感染予防の為マスク着用をお願いいたします。

編集後記

秋の深まりとともに肌寒さを感じる季節となりました。
読書の秋、スポーツの秋、芸術の秋、食欲の秋、皆様はどのような秋をお過ごしでしょうか。私はプライベートでは好きなアーティストの舞台に行ったりライブに行ったり趣味を楽しんでいます。
これから一層寒さが増してきますので、皆様も引き続きお身体を大切に、日々楽しく過ごしていただければと思います。
(M・F)

患者さんの権利と責務

権 利

1. 病気の種類や個人的背景に関係なく、平等に医療を受ける権利があります。
2. 人格は尊重され、医療提供者との相互協力関係のもとで最善で安全な医療を受ける権利があります。
3. 医療に関して十分な説明、情報を求める権利があります。
4. 医療内容について、医学的に必要な情報提供を受けたうえで、自分で選択し決定する権利があります。
5. 医師・病院を自由に選択し、他の医師の意見を求める権利があります。
6. 自己の意思に反する医療を拒否する権利があります。
7. 意識が無いか判断能力を欠く場合や未成年者の場合、代行者に決定を委ねる権利があります。
8. 自己の診療記録の開示を求める権利があります。
9. プライバシーや個人情報を保護される権利があります。
10. 健康維持のため教育やサービスを受ける権利があります。
11. 安全を確保される権利があります。

責 務

1. 医療提供者に対し、患者さんご自身の健康に関する正確な情報の提供をお願いします。
2. 他の患者さんの療養生活に支障を与えないよう配慮をお願いします。
3. 早期回復の為、医療提供者が定めた規則の遵守をお願いします。
4. 円滑な医療行為のための、医療提供者との協力関係の構築をお願いします。
5. 早期回復の為、患者さん・ご家族の積極的な医療への参加をお願いします。
6. 医療の安全性を高めるために最大限の努力を行っていますが、あらゆる医療行為は本質的には不確実です。意図せざる結果や予期しえぬ病気が発生する場合があることをご理解ください。
7. 診療費の遅滞ない支払いをお願いします。

広報誌 ラ・サンの最新号および過去数年分のバックナンバーをPDFでご覧いただけます。

社会医療法人玄真堂川島整形外科病院の
医療に関する活動などお届けしております。

<http://kawashimahp.jp>

かわしま



こちらからも
アクセスできます

